

視 点	評価項目	令和7年度 評価指標	令和7年度実績	評価	コメント
	入場者数	最終年度(R9)までに19万人以上/年 ※令和7年度目標 180,000人	190,479人	A	指標を大きく上回った。
		宿泊施設の稼働率 :最終年度(R9)までに30%以上 ※令和7年度目標 28.0%以上/年	43.6%	A	指標を大きく上回った。
	食育の推進	教育ファームカリキュラムの受講者 :最終年度(R9)までに24,000人以上/年 ※令和7年度目標 23,000人	27,863人	A	指標を大きく上回った。
	就農支援	体験イベント及び就農支援プログラムの受講者 :最終年度(R9)までに800人以上 ※令和7年度目標 780人	929人	A	指標を大きく上回った。
	6次産業の推進	・食品加工室利用回数 :410回以上/年 ・食品加工室利用人数 :1,040人以上/年	利用回数:421回 利用人数:1,027人	B	利用回数は上回ったが、利用人数は下回ったためBとする。
	広報の充実	・HPの情報更新 :244回以上/年 ・SNSによる発信 :370回以上/年	HP情報更新:369回 SNS発信 :660回	A	指標を大きく上回った。
	利用者の満足度	利用者アンケートで「満足」が87%以上	97.6%	A	指標を大きく上回った。
財 務	適正な財政運営	収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行	指定管理収支が黒字	B	指標を上回った。
		利用者ニーズを踏まえた開館日数・開館時間等の設定による効率的な運営	適正に実施	B	指標のとおり。
	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支状況の記録	適正に実施	B	指標のとおり。
業 務	安心・安全の確保	・防災訓練:年2回以上実施 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成	防災訓練:9/16・3/12付実施 防災マニュアル・安全管理マニュアル作成済	B	指標のとおり。
	コンプライアンスの徹底	職員へのコンプライアンス研修受講 :1回以上/年	1回(3/12付)	B	指標のとおり。
	市内産業の貢献	・再委託する場合の市内事業者への再委託及び資材等の市内事業者(店舗)等からの調達率 :90%以上	100%	A	指標を大きく上回った。
	市民協働の推進	ボランティアの受入れ :延べ1,000人/年以上	827人	C	指標を下回った。
	社会貢献	施設内の各種作業についての障がい者の受付 :延べ50人/年以上 (業務委託により障がい福祉サービス事業所等より障がい者を受け付けた人数)※令和7年度より定義を明確化	0%	C	指標を大きく下回った。
人 材	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	適正に実施	B	指標のとおり。
	業務の理解度と習得度	職員の業務研修 :1人あたり2回以上/年	11.1回	A	指標を大きく上回った。
	市内雇用の貢献度	市内住居者の雇用率 :90%以上	93.10%	A	指標を大きく上回った。
指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)					
令和7年の総入場者数は190,479人で、前年度比96.7%、6,410人の減となった。アグリパークの理念に基づくASPプログラムや創意工夫による一般プログラムにより、多くの来園者を迎え入れることができたが、夏季の猛暑や豪雨等により前年度を下回ることになった。今後も猛暑が想定されることから、室内を活用した体験等の充実が求められている。また、アンケート結果より来園者からは高い満足度が得られている。宿泊者は4,729で前年比144人の増となり、市内・県内はもとより、全国各地からの宿泊者があり、宿泊施設としての認知度向上がうかがわれる。 教育ファーム学校関係では、前年並みの延べ178校、8,592人が来園した。小学校の利用割合が最も高く、全体の75%を占めている。その他の学校種別では幼・保園15%、中学校3%、特別支援学校6%、その他(適応教室)1%であり、小学校の学年別では小学校2年生が59%と最も多かった。参加した学校の評価と満足度は引き続き高く、アンケートでは100%の学校から「農業体験学習のねらいは達成できた」という評価を得た。一般の利用者数は19,271人で、農と食に関わる「野菜収穫」「餌やり」「ピザ作り」などの体験や地域の特色と絡めた体験イベントの満足度が高かった。今後の課題として、学校関連ではSDGsに関連付けたキャンプサイトの活用と微細米粉製粉機の導入に伴う米粉プログラムの改善など、また一般向け体験においては企業・団体等との共催を活用するなどして、農業・食育などアグリパークならではの利点を活かしたプログラムを導入して、リピータ確保を図っていきたい。 食品加工支援事業では、食品加工の基礎を学ぶ講座を前年並みの54回開催し、延べ356人の受講があり、定員に対する受講率は前年並みの83%と高率であった。また講座以外の加工室利用は延べ367回671人が利用した。そのうち、農業関係者の利用が72%を占めており、農業者の6次産業化に向けた施設利用の高まりがうかがえる。商品化された製品は10品、一次加工品が1品、デザイン作成が10品であり、加工技術の相談回数は135回であった。また、5月には加工室利用生産者がジャム製造工房を立ち上げた。今後も地元農産物を使用した商品の新規開発支援のためJAや教育機関等と連携を図るとともに、微細米粉製粉機による米粉加工の技術展開について可能性を探るなど6次産業化支援に努めていきたい。 就農支援事業では、常設の就農相談窓口には16人(新規就農5人、就農希望8人、その他3人)の相談があった。就農体験研修には、野菜栽培コース8名、果樹栽培コース2名が受講した。また、経営管理力の育成を目的とした農業経営研修には新規就農者など41名が参加した。就農相談では就農全般・栽培技術・公的支援策等、相談内容が多様化しており、県や市(農業活性化研究センターほか)及びJAとの情報共有と連携強化が一層重要となっている。 施設の特色を生かした体験イベントを毎月開催したほか、「周年祭(6月)」やJA全農にいがたとの共催による「収穫祭(10月)」、地域コミュニティ協議会との共催による「どんど焼き(1月)」など大イベントを実施して、体験と美味しさを通して農業の理解を深め郷土愛を育む内容を基本に実施して好評であった。広報の充実では、紙媒体のほかホームページやSNSにより積極的な情報発信に努めるとともに、幅広い年齢層への周知浸透を図るため前広にプレスリリースを行うことによりテレビ各局や新聞等で複数回報道され集客にも繋がった。また、SDGsの観点から余剰収穫物を地元のフードバンクに提供した。次年度においても、直売所やレストランは元より南区観光農園等との地域連携をより強化して各種施策を積極的に展開していくとともに、より市民に近く親しみやすい体験施設を目指した運営を行い、利用者数の安定的増大とともに、農業振興と地域の活性化などの機能発揮に努めるものとする。					
所管課による総合評価(所見)					
新潟市アグリパークの設置目的及び事業計画書に基づいた適切な管理運営が行われている。 特に、入場者数は令和7年度目標の年間18万人を1万人以上も上回り、宿泊施設の稼働率も40%を超えるなど、施設利用の促進が図られていることに加え、利用者の満足度はほぼ100%であり、魅力的なサービスが提供されていることを高く評価する。 6次産業の推進について、食品加工室の利用人数が目標をわずかに下回っているが、利用回数は目標値を上回っており、今後は、さらに利用者数を増加させる計画であることから、食品加工講座への参加促進や加工機器の稼働率の向上などにも注力していただきたい。 また、市民協働の推進や社会貢献について、目標が達成できていない項目については、改善に取り組んでいただきたい。 令和7年度は、新潟市アグリパーク開設11周年を迎え、新規コラボイベントの開催をはじめとした施設の魅力拡大につながる新たな取組も生まれた。また、学習室にて食や農に関する展示を企画・実施するなど、令和6年度に認定された「食文化ミュージアム」としても本格始動する1年だった。施設への注目度がより一層高まり、更なる展開も期待されているため、今後も、これまで本施設の運営で蓄積されたノウハウを最大限に活かしながら、新潟市の食と農の振興や地域活性化に取り組んでいただきたい。					